

文化情報誌

たわわ

2024 No.122

「たわわ」というタイトルには「小さな情報がたくさん集まって多くの実を結ぶように」という期待が込められています。

絵で魅せる **JAZZ** の響



加藤 宏さん

幼少期より、平塚の自宅に画材用具一式が全部揃っていたため、ごく自然に絵を描くようになりました。また、大磯にアトリエを構えていた独立美術協会の横地康国先生の奥様が開いていた、いけばな教室に私の母が通っていたこともあり、母についていったことから、横地先生に可愛がられ、それで絵に特に興味を持つようになりました。また、友人知人に画家や絵を志す人たちが多く、そういった人たちとも接することができ、大変恵まれた環境でしたね。

16歳頃から本格的に画家の皆さんとの付き合いがスタートして、油彩、水彩、版画、シルクスクリンなどに挑戦しましたが、油彩が一番自分にしっくりきて、今は油彩に専念しています。実は中学3年後半に大病を患い、療養を強いられ、満足な高校生活を送れず、大学に進学しても2年目から学生運動が盛んになり、これまた満足に授業を受けられず、結果として、絵にのめり込む時間が十分に持てました。

とはいえ、決して順風満帆とはいえ、家庭の事情から画家を職業とすることは親からは猛反対されていました。なので、美術学校での教育は無く、まったくの独学で学んでいましたが、

学ぶことで同じ志の人や画家さんとの人間関係が広がり、いろいろ面倒をみてくれることも多くなって応援してもらいました。

23歳から平塚市役所に勤務していましたが、50歳頃より、周りから早く辞めて絵に専念しろと言われ続けて、57歳で退職しました。ただ、在職中は同僚から絵のことについて、色々聞かれたこともありましたが、絵と仕事の時間をしっかり切り分けて、両立させていました。

1996年から「JAZZの響」という個展をずっと開催しています。当初は藤沢市内で開催していましたが、2020年からは平塚のギャラリーで開催となりました。今年も開催します。

JAZZとの最初の接点、これは高校生の時です。

たまたま観た映画が「死刑台のエレベーター」で、映像よりも流れていた音楽に感動してしまいました。それまで音楽と言ったら、歌謡曲か演歌ばかりだったので。すぐさまレコード屋にかけこんで、そこで「JAZZ」を知りました。そのレコードのジャケット写真をみて、「洒落ていて、カッコい

い」と描くきっかけになりました。ただ、ジャケットをそのまま描くのでは意味がないので、本物に触れなければと都内や横浜のジャズクラブによく通い、JAZZの雰囲気を感じるように努力しました。その場ではスケッチもせず、頭の中で筆を走らせて描いたものを自宅に持ち帰り、キャンバスに表現しました。絵では臨場感を高めるため、ミュージシャンを実際の立ち位置より近くに描き、絵を見ている方がその場に一緒にいるように感じてもらうために、あえて観客の後ろ姿も何人か描きます。よく絵から音を感じると言われることが多いのはこのためです。

また最近はJAZZだけでなく、湘南よさこい祭りの躍動感にも感化されて描いています。



「フェスタ・平塚よさこい」

今は画家とは別にいくつかの団体の会長職をさせていただいています。全体への奉仕、自分だけでなく地域が良くなれば自分も当然のことながら良くなっていくという考え、地域を盛り上げなくてはいけないという考えが根底にあります。でも、結構大変です。平塚市文化連盟は20以上の団体があり、各団体の大会での挨拶もあります。絵は分かりますが、他の芸能部門は難しいです。いろいろ調べて壇上に立つこともあり、毎回苦労しています。

平塚は自然があって、適度に田舎と都会が交じり合っているところだと思うので、ずっと市内に住んでいます。ただ、みんなで協力して、繋がって、何かを成し遂げることが少ない、結果として全体的に盛り上がらないという印象を持っています。なので、芸術だけでなく、いろいろな面で平塚を盛り上げていきたいと考えています。例えば、市内の施設で同時に、同じテーマでお祭りのような企画ができないかなと。そうすることでいろんな分野の人々の交流や繋がりが生まれて、相乗効果で新しい息吹が育まれるチャンスになればと思います。会長職を続けながら、そのあたりに貢献していきたいと考えています。

画家、会長職とも次のステージに期待してください。

【プロフィール】加藤 宏

「JAZZの響」という油絵個展を毎年開催し、画家として地元根差した精力的な活動をしている。平塚市文化連盟会長、平塚市展委員会会長など、市内の文化団体の要職を務め、同時に平塚市文化振興懇話会委員として、平塚市の文化芸術の発展に積極的な提言を行いながら、市内の文化活動の底上げを推進している。



「JAZZの響」



巡って学ぶ平塚学入門 ⑩

「平塚のセミ」

セミは特徴的な鳴き声とともに、夏の季節を代表する身近な生き物として親しまれてきました。しかし、セミの世界にも変化が起き、身近な場所で聞こえる声が限られてきたことから、抜け殻を使ったセミの分布調査が始まりました。

平塚のセミの分布調査はこれまで、1980～2018年の間に4回行われています。調査の結果、平塚市内には7種類（アブラゼミ、ミンミンゼミ、ツクツクボウシ、ニイニイゼミ、クマゼミ、ヒグラシ、ハルゼミ）のセミが生息していますが、そのうち2種類のセミの分布が変化していることがわかりました。

一つはミンミンゼミで、2003年調査で、それまで見つからなかった市街地で抜け殻が見つかり、その後も見つかっていま



ミンミンゼミ
(市内馬入本町)
撮影：堀田 佳之介

す。ミンミンゼミが分布を広げたのは、都市公園が作られてからの年数が経過し、飛来した個体が定着したからと考えられます。

もう一つはクマゼミです。クマゼミは南方系の種類で、平塚で初めてクマゼミが記録されたのは1980年の調査時です。抜け殻が2カ所で見つかったのみでした。その後の調査でも数個発見されていましたが、2014～2018年の調査では20カ所以上の場所で見つかるようになり、数も大幅に増え、クマゼミが平塚に定着していることがわかりました。

クマゼミはシャーシャーとかなり大きな声で鳴き、アブラゼミはジージー、ミンミンゼミはミンミン。みなさんがセミの声で思い浮かべるのはどんな音でしょうか。平塚の夏の音が変化してきているかもしれません。

(平塚市博物館学芸員)



クマゼミ
(市内虹ヶ浜)
撮影：堀田 佳之介

ひらしん平塚文化芸術ホール 主催事業レポート Vol.4

ひらしん平塚文化芸術ホールで実施している、様々なジャンルの事業の様子をお届けする主催事業レポート。今回は、「MUSIC エンターテインメントシリーズ」から、令和6年3月2日に開催した「fox capture plan in HIRATSUKA」をご紹介します。

このシリーズでは、エンターテインメント性の高い、幅広いジャンルのアーティストによる音楽コンサートを開催しています。これまでに和楽器や和太鼓、ジャズ、ピアノ連弾などの公演を開催し、多くの観客に様々な演奏をお楽しみいただいています。

今回は、フジロックフェスティバルなどの国内外の様々な大型音楽フェスへ出演し、数々の人気ドラマ・映画の音楽も手掛けるアーティスト「fox capture plan」のコンサートを平塚で初めて開催

しました。

ピアノ・ベース・ドラムで構成されるfox capture planは、「現代版ジャズ・ロック」をコンセプトとした情熱的かつクールで新感覚なピアノ・トリオです。今回の公演では、大ホールの音響を生かして、オリジナル曲やカバー曲など17曲を休憩なしで熱演し、その洗練された音楽で観客を魅了しました。

終演後のアンケートでは、「平塚ではあまり見られないタイプのバンドと音楽で良かった」といった声もあり、fox capture planのコンサートに初めて参加した方が約5割と、多くの方に新しい音楽体験を提供することができました。今後もこのシリーズでは、様々なジャンルの音楽のコンサートをお届けしますので楽しみにしてください。



リトアニアに行く前に… 「リトアニアの食文化：ビールとライ麦パン」

平塚市は2023年11月25日にカウナス市と姉妹都市提携を結び、姉妹都市となりました。今回はカウナス市出身のジュギーテ・サウレさん（平塚市国際交流員）がリトアニアのビールとライ麦パンについて紹介します。



リトアニアビールとチーズ盛り合わせ

あるカウナス市にも大きいビール醸造所があります。「Volfas Engelman」（ラルファス・エンゲルマン）というブランドで、19世紀に設立した醸造所です。戦争で被害を受け、1920年頃に再建。当時のスメトナ大統領をはじめ、今でも多くの市民に愛され続けています。リトアニアでも人気が高いビールのひとつで、日本をはじめ、東アジアにも輸出されています。



リトアニアのライ麦パン

それにより、パンの香りが濃く、少し酸っぱくなることで、より美味しくなります。日本のご飯と同じように、ライ麦パンは朝昼晩と3食食べることもしばしば。サンドイッチにしたり、揚げておやつにしたりと食べ方はバリエーション豊かです。

皆さんもリトアニアを訪れる際、美味しいビールとライ麦パンを召し上がってみてください。

リトアニアの食文化を語る時に、ビールとライ麦パンは長い歴史もあり、欠かせない大事なものになります。リトアニアに来たら、是非味わってみたいと思います。

リトアニアのビールの歴史は、11世紀頃から始まり、ビールと醸造所を守っている神を「ラグティス」と呼び、崇めていたようです。そのため、醸造所を持っていた人は、祭りなどでビールが欠かせないこともあり、人々から尊敬されたとされています。

そういった歴史もあり、現在のリトアニアでもビールは人気です。2022年国別一人当たりビール消費量では日本の56位に対し、リトアニアは、なんと世界5位にランクインしています（キリンホールディングスHPより）。姉妹都市で



「Volfas Engelman」の缶ビール

続いて、リトアニアの主食であるライ麦パンです。ライ麦パンは約800年前から20世紀まで唯一の主食だったということもあって、その存在はリトアニア国民にとって切り離せないものになっています。

ライ麦パンはライ麦粉、種麹、麦芽を使用するのが一般的ですが、リトアニアの特徴として焼く際にショウブの葉をよく使

平塚市文化振興基金に御協力を

平塚市文化振興基金は、市民文化の振興を図るために活用されています。基金に御協力くださる方は、平塚市文化・交流課まで御一報ください。
(2024.2.1～2024.5.31までに御寄附くださった方) (敬称略)

- 2024年3月27日 湘南ステーションビル株式会社（現：株式会社JR横浜湘南シティクリエイト）

発行 平塚市文化・交流課 | 〒254-8686 平塚市浅間町9-1

電話 0463-32-2235 FAX 0463-21-9756 E-mail: bunkoh@city.hiratsuka.kanagawa.jp

令和6年(2024年)6月15日発行

右の2次元コードより文化情報誌「たわわ」へアクセスできます

